

論文要旨

因果探索アルゴリズムを使用した 高齢者における社会的孤立のメカニズムの検討

生物統計情報学コース

49-226607

黒田 蒼

目的 近年、日本では、高齢者の社会的孤立が深刻化し、関心が高まっている。これまで、社会的孤立の予測因子についての研究は行われ、社会的孤立は幅広い分野かつ多くの因子によって引き起こされる現象であると明らかになりつつあるが、そのメカニズムについて検討した研究は少ない。そこで、本研究は、PC (Peter-Clark) アルゴリズムという因果探索アルゴリズムを用いて高齢者の社会的孤立のメカニズムを記述する。

方法 要介護認定を受けていない 65 歳以上の高齢者を対象とした日本老年学的評価研究 (Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES) の 2019 年に 25 都道府県 64 市町村で実施された調査と 2022 年に 24 都道府県 75 市町村で実施された調査のパネルデータを使用した。社会的孤立は、配偶者、子ども、親戚、友人、社会参加の 5 つの指標の合計点 (0 点から 5 点) で評価した。その他に扱った変数は、これまでの知見を参考に、基本属性等・健康状態・社会関係・幸福度の 4 つのカテゴリーに注目し、そのカテゴリーに該当するものとした。PC アルゴリズムにおける、ネットワークのつながりを判断する有意水準は 10^{-7} とした。

結果 解析対象者数は、30,742 人であった。平均年齢は 72.5 歳で、男女比は男性 56.0%、女性 44.0% であった。因果探索アルゴリズムによって記述された因果関係によると、社会的孤立の直接的に影響を与える関連因子は、年齢、外出頻度、高齢者用うつ病評価

尺度, 2019 年調査の社会的孤立スコア, 一人暮らしであった。また, これらの社会的孤立の原因に影響を与える関連因子も発見された。

考察 社会的孤立の直接的に影響を与える関連因子は, これまでの知見とおおよそ一致していた。また, 間接的な影響を含めメカニズムに注目すると, 社会的孤立対策として昨今注目されている社会参加を促進するための地域づくりは, 複数のパスを通じて社会的孤立に影響を与えている可能性が示唆された。

結論 因果探索アルゴリズムを用いてメカニズムを記述することで, 高齢者の社会的孤立に直接影響を与える因子は, 年齢, 外出頻度, 高齢者用うつ病評価尺度, 2019 年調査の社会的孤立スコア, 一人暮らしであった。本研究では, 社会的孤立の施策を考えるうえで参考となるアルゴリズムを記述することができた。